

ジャーナリズム／メディア文化

Journalism, Media and Cultural Education

ジャーナリズムの「イズム」は人間に宿る。メディア文化を縦横に学ぶ旅に出よう。

設置の趣旨・概要

本学ではジャーナリズム、メディア、文化現象に関心を持ち、将来そのような職業に就いて活躍したいという希望を抱いて入学してくる学生諸君が多い。また実際にこれらの分野に多くの人材を送り出してきました。それは本学の特色とするところであり、そのような意欲をもった学生諸君はあらゆる学部に散在しています。本副専攻はそのような諸君に勉学の機会とともに将来の仕事への実践的準備を提供しようとするものです。

今日、ジャーナリズム、メディア、文化現象という分野は相互に深く関連しながら、激動の只中にあります。ジャーナリズムは「マスコミ」体制の閉塞のなかであえぎつつも、その「イズム」の担い手を「個」に求めて脱出口を探しています。メディア・システムはインターネットをも包み込んだ地殻変動の中で、相互の垣根がない融合状態へと進み、制度的にも産業的にも重大な過渡期にあります。メディアの作り出す文化現象はグローバル化のなかで国境を初めとした既存のさまざまな境界を問い直し、新しい意識を生み出そうとされていますが、しかし同時に逆流現象も見られます。これらさまざまな動向と現象が捻り合わされて、太い変化の潮流を作り出しているのです。

ジャーナリズム研究、メディア文化研究という学問領域が相互に連携しながら、こうした世界的な状況を認識し、理解し、説明しようと努力してきました。と同時に、このような分野で専門的に仕事をする職業人や社会の中で実践的に働く市民活動家もこの状況をより客観的、体系的、構造的に捉え、将来への展望を開きたいと努力してきました。双方の関心と努力と展望が交差し重なるところに、この副専攻の教育プログラムは成立しています。

将来ジャーナリストになろうとする人はメディア産業やメディア文化現象のことを知らずしてはなれませんし、将来メディア産業や文化産業で仕事をしたい人はジャーナリズム活動とメディア文化現象への理解なしにはよい仕事はできません。

みなさんにはこの2本の柱のうちどちらかの柱に軸足を置いて、そこを深く掘り下げて考え、実践しながら学ぶとともに、もうひとつの柱についても関心を払って勉強して欲しいと思います。それはきっと知的にも実践的にもワクワクする、冒険的な機会なのです。

履修モデル

この副専攻の教育プログラムは2本のポール（柱）から成っています。

◆第1は「ジャーナリズム」の柱で、ジャーナリスト志望の学生向けに考えられています。ここではジャーナリズムの理論と歴史を学び、同時代についての批判的・分析的な社会認識を理解し、そしてジャーナリストの経験的な知と実践的な精神から学ぶことが目標です。これは「マスコミ教育」ではなく、「ジャーナリスト養成教育」です。「ジャーナリズムとは何か」「ジャーナリストとはどのような職業か」を理解し、その「ものの見方」や姿勢を明確に意識した上で、その道に進んで行って欲しいと思います。演習で採っている教育方針は2つあり、ひとつはジャーナリズムがその社会的機能を果たしたときのケースと作品とジャーナリストから学ぶこと、もうひとつは観察者の立場に立って出来事の現場と当事者（つまり「他者」）からいかに学ぶかということです。

◆第2は「メディア文化研究」の柱で、メディアのさまざまな特性、メディア文化の権力作用、メディア産業の実態、メディア制度の構造、情報社会論など、現代のメディア環境を理解する上での基本的な枠組みを学び、現状に対する批判的視点を獲得することが目標です。と同時に、グローバル文化、映像文化、表象文化論、読者論、オーディエンス論などの文化研究の成果を学ぶとともに、実際にさまざまな文化実践や作品に触れながら理解を深めていくことも目標です。一見すると報道やジャーナリズムとは縁遠いように見える、日常的な音楽やドラマなどポピュラー文化の生産と受容にこそ「他者」への理解や偏見のメカニズムが隠されています。このことを見抜く力、そして対話や文化実践の教養を身につけて欲しいと思います。

●履修方法としては、自分自身の関心に合わせて2本のポールのどちらかを選んで、そのポールのコア科目群を中心に履修してください。次に、他のポールのコア科目を優先的に履修してください。コア科目で修得した単位は選択科目の単位に読み替えることができますので、コア科目だけでも副専攻修了に必要なすべての単位を揃えることは可能です。その際、人数の多い講義科目だけで単位を揃えることも理論的には可能ですが、自分が選んだポールに配置されている少人数の演習科目を少なくとも一つは履修することを強くお勧めします。もちろん修了に必要な選択科目の単位を選択科目群の中で満たすこともできます。

つまり、履修モデルとして優先順位は次のとおりです。

- 1 自分の選んだポールのコア科目のうち講義科目をまず履修し、さらに演習科目に進む。
- 2 他のポールのコア科目を履修し、修了に必要な単位数に近づける。コア科目単位は選択科目単位に読み替えが可能ですから、これを活用してください。
- 3 興味のある選択科目を履修し、修了に必要な単位数を達成する。

以上3つをその順番で進めてもよいし、同時並行的に、計画的に進めてもよいでしょう。

履修開始時	修了時	修了後の展望
本副専攻に興味・関心がある	2本のポールのどれかについて実践的な深い知識を獲得し、ほかのポールについても一般的な理解をもっている。希望する職業分野について知的なスタンバイ状態を達成している。	・コミュニケーション関連職業に就く。ジャーナリスト、メディア産業、文化産業、広報活動、市民活動、NPO、NGOなど。 ・関連領域の大学院への進学。

学生へのメッセージ

今日のジャーナリズム状況、メディア状況、メディア文化現象の中で自分を見失わずにアクティブに生きていくためには、先入観にとらわれない領域横断的な知の構え、この時代に主体的に関わろうという実践的な倫理観、そして他者への表現能力と伝達能力が必要です。学びへの旺盛な意欲をもった学生諸君の受講を期待し、歓迎します。

みなさんの所属学部で主専攻をしっかりと学習することを前提に、ここでの副専攻としての学習があることを自覚して、計画的に大学生活を送ってほしいと思います。大学には使い切れないほどに、学習のための機会と資源があります。

指定科目一覧

修了必要単位

18単位（コア科目6単位、選択科目12単位）以上

★コア科目

修了必要単位=6単位

項	設置学部・センター	科目名称	担当教員名	配当年次	学期	曜日時限	キャンパス	単位	認	備 考
1	オープン	ジャーナリズム概論	野中 章弘	1年以上	春学期	火2時限	早稲田	2	○	履修必須
2	オープン	ジャーナリズム演習 ベーシック	野中 章弘	1年以上	秋学期	火2-3	早稲田	4	○	演習形式、自動登録
3	オープン	ジャーナリズム演習 アドバンスト	野中 章弘	2年以上	春学期	火3時限	早稲田	2	○	演習形式、2年以上、自動登録
4	オープン	インターンシップ実習 03 (マスメディア)	野中 章弘	1年以上	秋学期	土4-5	早稲田	2		実習形式、キャリアセンターに個別申請
5	オープン	インターンシップ実習 07 (上級)	野中 章弘	1年以上	秋学期	土3-4	早稲田	2		実習形式、キャリアセンターに個別申請
6	オープン	メディア論入門	伊藤 守	1年以上	秋学期	火2時限	早稲田	2	○	履修必須
7	オープン	表象とメディア		1年以上				2		2012年度休講
8	オープン	テレビドラマと日本社会	長谷 正人	1年以上	秋学期	木2時限	早稲田	2	○	演習形式
9	オープン	メディア文化研究	伊藤 守 他	1年以上	春学期	月3時限	早稲田	2	○	演習形式
10	オープン	グローバル文化論	伊藤 守 他	1年以上	秋学期	月3時限	早稲田	2	○	演習形式
11	オープン	メディア文化とシティズンシップ	岩淵 功一	1年以上	秋学期	木3時限	早稲田	2	○	

★選択科目

修了必要単位=12単位

項	設置学部・センター	科目名称	担当教員名	配当年次	学期	曜日時限	キャンパス	単位	認	備 考
1	オープン	報道が社会を変えるー取材過程論ー	谷藤 悦史	1年以上	秋学期	木2時限	早稲田	2	○	コア科目から選択科目へ変更
2	オープン	スポーツジャーナリズム論 (大久保建男スポーツジャーナリズム基金寄附講座)	中村 好男 他	1年以上	春学期	金2時限	早稲田	2	○	
3	オープン	情報化社会論	土方 正夫	1年以上	春学期	水3時限	早稲田	2		
4	オープン	地域連携と地域競争力	囊谷 友紀 他	1年以上	秋学期	水6時限	早稲田	2		
5	オープン	21世紀世界における戦争と平和 (入門・歴史)	多賀 秀敏 他	1年以上	春学期	土2時限	早稲田	2		
6	オープン	21世紀世界における戦争と平和 (争点、ケース)	多賀 秀敏 他	1年以上	秋学期	土2時限	早稲田	2		
7	オープン	身体表象論	神尾 達之	1年以上	秋学期	木5時限	早稲田	2		
8	オープン	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ ((株)フジテレビジョン寄附講座)	安藤 紘平 他	1年以上	春学期	土4時限	早稲田	2	○	
9	オープン	スペクタクル社会を考える	中村 要	1年以上	通年	木3時限	早稲田	4	○	上級生優先枠10名
10	オープン	Cross-Cultural Distance Learning (CCDL) (Media)	近藤 悠介 他	1年以上	※	※	早稲田	2		実験実習料12,500円
11	オープン	Cross-Cultural Distance Learning (CCDL) (Social and Global Issues)	マスワナ 紗矢子 他	1年以上	※	※	早稲田	2		実験実習料12,500円
12	政経	映像文化論A 02	原 章二	1年以上	春学期	金5時限	早稲田	2		
13	政経	映像文化論B 02	原 章二	1年以上	秋学期	水1時限	早稲田	2		
14	法学	芸術論 I B (塚原)	塚原 史	1年以上	秋学期	木3時限	早稲田	2		
15	法学	芸術論 II (塚原)	塚原 史	1年以上	春学期	木3時限	早稲田	2		
16	教育	マスコミュニケーション概論 I	谷川 建司	1年以上	前期	金3時限	早稲田	2		
17	教育	マスコミュニケーション概論 II	谷川 建司	1年以上	後期	金3時限	早稲田	2		
18	教育	広報関係論 I	伊藤 守	2年以上	前期	水4時限	早稲田	2		
19	教育	広報関係論 II	伊藤 守	2年以上	後期	水4時限	早稲田	2		
20	教育	社会学研究 I-1	北澤 裕	2年以上	前期	水2時限	早稲田	2		
21	教育	社会学研究 I-2	北澤 裕	2年以上	後期	水2時限	早稲田	2		
22	教育	現代社会研究6	若林 幹夫 他	2年以上	後期	月5時限	早稲田	2		
23	教育	情報技術の応用と職業	楠元 範明	2年以上	前期	月3時限	早稲田	2		
24	教育	情報社会・情報倫理	楠元 範明	2年以上	後期	月3時限	早稲田	2		
25	教育	複合文化学特論17	神尾 達之	2年以上	前期	木5時限	早稲田	2		
26	教育	複合文化学特論19	福田 育弘	2年以上	後期	金3時限	早稲田	2		

※クラスによって学期、曜日時限が異なるため、詳細は科目登録の手引き「科目一覧」を確認してください。